

# スーパーバイザー 矢高則夫氏 講演・生徒との座談会の記録（要旨）

## 講演 ～グローバル社会と信州～

（平成 27 年 10 月 31 日 上田染谷丘高等学校）

---

### ◇講演記録（要旨）

#### ◆はじめに◆

こんにちは。矢高則夫です。今日は学校のないお休みの日に集まっていたいてありがとうございます。みなさん来てよかった、と思っただけのお話をしたいと思いますし、皆さんの話を聞きたい、と思っています。

私は信州、長野県の飯田で生まれて、飯田市に 18 年間住んでいました。飯田から来ると、上田は山が低く、街は平で、高校生のみなさんも含め、気持ちも穏やかなのだろう、と思っております。私は昭和 29 年の生まれです。その頃、上田染谷丘高校はバスケットボールが非常に強く、昭和 26、7、8 年頃には、上田染谷丘高校のバスケットボール部のクラブチームが実業団のチームを破って、全日本 3 連覇という偉業を達成したことで、知っています。また、上田高校は昭和 32 年の第 39 回大会と昭和 62 年の大会で、夏の甲子園に出場しています。皆さんは、高校野球で長野県代表のチームが甲子園に出ていることを当然のことに思っていますが、昭和 32 年までは長野県で優勝すると新潟県のチームと勝負をして、それに勝つと初めて甲子園に行けたのです。それが信越代表でした。昭和 33 年に第 40 回記念大会を迎えた時に、主催していた朝日新聞がこれだけ長野県は強いので翌年からは 1 県 1 校にしよう、ということになり、昭和 32 年が最後の信越大会になりました。何を言いたいかというと、32 年、62 年、次に出るのは「昭和 92 年」だ、再来年に上田高校が甲子園に出るのではないかと私は大変期待しています。それでは、話を始めたいと思います。

#### ◆昭和 54 年 4 月 1 日という日◆

○私は昭和 54 年 4 月 1 日という日に共同通信社に入り、36 年半経ちました。正確に言うと昭和 54 年 4 月 1 日は日曜日だったので入社式は 4 月 2 日になりましたが、今でも世界を揺るがし、私の飯のタネになっていることが起きました。皆さんは、中東にイランという国があることはご存知だと思いますが、イランが今まで核兵器を造っていたのではないかと、という疑念があつて、それを解決するための核合意が今年 7 月にできましたが、イランの王政が倒れてイラン・イスラム共和国というイスラム教の指導体制になったのが、私が会社に入った昭和 54 年 4 月 1 日でした。それ以来イランとアメリカは仲が悪くて国交を断絶したままです。

○私は 60 歳を過ぎてもイランの記事を書くことで給料をもらっています。イランの問題の根本が、私が会社に入ったその日に起きたという縁のようなものを大切にしなければいけないと思っています。

○皆さんも何かの節目の一日に、自分と直接関係があることが起きるかもしれない、と思っています。

## ◆海外駐在の経緯◆

イランには1989年から91年まで駐在しておりました。それから1993年から96年まで南アフリカにおりました。この時にマンデラ大統領が南アフリカで初めての黒人大統領に当選しました。一方、暗いニュースとしてはルワンダで内戦がありました。当時、人口が400万人位の国でツチ人、フツ人という違う部族の人たちが争い合って、数週間のうちに80万人が死亡する、という大変な時期がありました。私はこの虐殺が終わって数週間後に現地に行って取材をしたということがあります。それから1999年から2002年まで3年間、アメリカのニューヨークにおりました。皆さんほとんどは17歳、18歳の方だと思うので、覚えている方がおいでになるかどうか分かりませんが、同時多発テロがありました。私はその時にニューヨークにいて、その取材をしていました。

ただ外国に行くことだけがグローバル化社会なのでしょうか。グローバル化や国際化、グローバルや最近ではグローバルという言葉もあるのですが、これはなかなか言葉が難しいです。難しいというのは、その言葉の違いをよく考えることによって大変わることが多いということですので、グローバルということとインターナショナルということの似ているところや違いについてもお話したいと思います。

## ◆信州の歴史から見たグローバル化と国際化◆

○私達、信州に住んでいる人間にとってのグローバル、あるいはインターナショナルというのは、私の考えでは150年前や明治維新になって鎖国が終わった時に始まったものではありません。まずは、インターナショナルになる前に信州が国際情勢と非常に深く繋がっていた時代のことを話したいと思います。

○「長野県の歴史」という本に紹介されている長野県の古墳の図を見ますと、私たちが今いる上田は二子塚古墳あたりだと思います。長野県の古墳の特長は千曲川一帯と天竜川の、長野県で言えば下流、全体で言えば中流部分に古墳が非常に多くあることです。前方後円墳は古墳の最終形のようなもので、前方後円墳があるかないかがその土地のことを考える上で重要な手掛かりになることだと思います。皆さんに馴染みが深い森將軍塚古墳は、善光寺平にあります。南の方に行きますと高岡1号古墳などがあります。

○2009年8月13日付の信濃毎日新聞に、朴天秀（パク・チョンス）先生が「信濃の古墳は朝鮮半島の南部にある古墳と似ている。しかも長野県の古墳よりも朝鮮半島の前方後円墳の方が新しい。」と言われました。これは、例えば善光寺平や下伊那の首長が朝鮮半島と直接交遊をしていたことの証拠だ、と言うのです。当時の意識が、遠くに住んでいても、違う国の人だとか、言葉が完全に違うということはなかったのです。しかも面白いことは、北と南の二つの交流ルートがあることです。一つは、朝鮮半島の南から九州→北陸→糸魚川という日本海側の海の道を通して長野県に入ってきた北からのルートで、もう一つは九州大宰府のあたりから横断して大分県から愛媛県→香川県→淡路島→和歌山→熊野が高野山→伊勢神宮→伊勢湾を渡って渥美半島から北に上がってきたという南からのルートの二つの交流ルートがあり、私達が住んでいるところはそういう二つの道を通して4世紀、5世紀、6世紀頃まで朝鮮半島と、国境という意識があまりなく付き合っていたということです。グローバル化というのは私達の記憶に遥かに残る前から信州という所を巻き込んでいた、ということを理解してほしいと思います。場合によっては、上田の人でも飯田の人よりも朝鮮半島の南の方に親近感を持っていた人もいただろうし、飯田の人でも長野市のことよりも朝鮮半島の方に

親近感を持っていた人がいたのではないか、ということです。

- 善光寺縁起によりますと 552 年に今の善光寺のご本尊が百済から日本に伝来します。602 年に本多義光が難波の都より阿弥陀如来像様（ご本尊）を信濃に持ち帰り、642 年に阿弥陀如来像様が現在の善光寺に移っておいでになりました。今から考えるとよくできていると思いますが、お移りになった 3 年後に大化の改新が起きて、日本が中大兄皇子のもとで統一国家化されています。
- 今までは国という意識のない時代でしたが、国という意識ができてきて、それまでの動態化した壁のないグローバルのような時代から国際化（インターナショナル）します。国際というのは国と国の際を国際というのであって、国がないと国際という概念はありません。国があつて初めて国際化があるのです。

### ◆国際化の起こり◆

- 小県の郡の他田舎人大島が万葉集に遺した歌

「韓衣 裾にとりつき泣く子らを 置きてぞ来ぬや 母なしにして」（小県郡の他田舎人大島が、自分の服をしっかりと握って泣く、母のない子供たちを置いて九州に防人として行く時に詠んだ歌）

- 群馬県の人を作った歌（らしい）

「ひなくもり 碓井の坂を越えしだに 妹が恋しく 忘れえぬかも」（恋人を残して九州に出征することになり、碓氷峠を登った時に群馬県を振り返り、寂しい心の内を詠んだ歌）

- 埴科郡の神人郡子忍男が詠んだ歌

「ちはやふる 神の御坂に幣まつり 斎ふ命は母父のため」（飯田にある御坂峠を越える時に詠んだ歌）

長野県には 8 世紀頃からこのような歌を詠む一般人がいて、万葉集にも取られるほど文化的にも程度が高い状況だったということです。また、この頃は日本という国を守るためにみんなが兵隊にとられて、九州に行き、朝鮮半島の政権や唐の軍隊と対峙して、攻めてきたら自衛権を行使するのだ、という意識を持ったということで、この頃日本は国になったということです。むしろそれが終わってから一つの国内で完結する体制が生まれたわけで、1300 年以上前に私たちは国際化というものを体験していたのです。我々は今になって初めて国際化を体験するわけではなくグローバル化を体験するわけでもないのです。

### ◆通信社記者としてのこれまでの仕事◆

- 私が通信社記者として外国へ行き、どういう仕事をしてきたかをお伝えしたいと思います。

### ◆マンデラ大統領◆

- 私は以前、2013 年の 12 月に亡くなったマンデラ大統領の取材をしました。マンデラさんは南アフリカで初めて黒人として大統領になった人です。オバマさんも黒人として初めてアメリカの大統領になりましたが、南アフリカが根本的に違うのは 1990 年ごろまで南アフリカは人口が 5000 万人くらいいたと思いますが、そのうち 3500 万人いた黒人が政治に一切参加できなかったことです。第 2 次大戦後に独立してオランダ系白人の政権ができた時にアパルトヘイト（人種隔離）政策が始まりました。マンデラさんはそれに対する闘争で 27 年間牢獄に入っていました。それが 1990 年に釈放されて、1994 年に初めて黒人が投票できるようになり、その時に初めて大統領になった人です。

- デクラーク元大統領は、後のマンデラ大統領を釈放してマンデラさんと二人で政権を執った人で、1993年12月に二人で一緒にノーベル平和賞を受賞しました。私が見ているかぎり二人は非常に気が合わなかったのですけれども、大変に信頼感が厚く、マンデラとデクラークの二人でなければ南アフリカを民主化させることはできない、ということで協力しあいました。仲の良い人間でなくても協力すると色々なことが起きるといことです。

### ◆今に直接関係する節目の年◆

- 7世紀に日本が日本という国を意識して、国内に防人という徴兵制度も布かれました。徴兵制度を布く国民皆兵が近代国家の一つの不可欠な材料と考えると、徴兵制を布いて軍隊を信州から九州まで持っていったことも一つの大きな節目だと思います。

#### 【1840年】

- 日本では天保11年で、水野忠邦が天保の改革を行い、幕府を立て直そうとしていた頃です。
- アヘン戦争により列強の中国侵略が始まりました。香港島は割譲を受け、その後九竜半島を租借するというので、一気に中国への侵略が始まりました。
- イギリスがニュージーランドの現地の先住民と条約を結び、先住民の人たちがイギリスのビクトリア女王の臣下であるという条約を結びました。
- アメリカの8代目の大統領ヴァン・ビューレンがアメリカの大統領として初めて公式文書で日本にふれました。アメリカのレーダースクリーンに日本が初めて入った年です。

#### 【2003年（私達の生活を規定した年）】

アメリカのオバマ大統領が特殊部隊をシリアに派遣することを決めた、という報道がありました。イスラム国というイスラムの過激派組織がシリアやイラクで実効的な支配をしていることが、世界を大きく揺るがす問題となっています。日本人のジャーナリストと後藤健二さんが人質になり、惨殺されたということも今年ありました。

- アメリカを中心とする多国籍軍がイラクのフセイン政権を打倒するためにイラク戦争を始めた年です。フセイン大統領を取り除けばイラクは民主化する、とって侵攻したのですが、イラク戦争の泥沼化が私達の生活を大きく規定してしまいました。アメリカは財政赤字が増え、経済に大きな影響を及ぼしました。また、イラク国内も無茶苦茶になってしまい、治安維持のために軍隊を送らなければならない状況になりました。2003年からほぼ10年近く、アメリカや世界の関心が中東に集まってしまったということがあります。

- 中東への関心が非常に高まった分、北朝鮮や中国の動向についてアメリカの手が回らず、中国や北朝鮮の動きに対する隙ができた年でもありました。

- 中国は2~3年前にGDPで日本を追い抜きました。中国が大きくなった理由は輸出も関係ありますが、物を輸入するようになったことが大きな理由です。輸入するから中国は強いのであって、中国が物を買わないとこれからの国際経済に対する影響が大きいのですが、私は中国の経済成長の世界経済による世界政治における大きな節目は、中国の輸入が日本の輸入を抜いた2003年ではないかと思っています。

- アフリカの経済成長も始まりました。それは、石油や天然ガスが出るから、あるいはウランや金や銅などがあるから経済成長が始まったのであって、これが国民全体に行きわたっていないことが大きな問題です。私が3年間暮らし、マンデラ大統領の当選と共に民主化ができた南アフリカは、世界で最も深刻な貧富の格差が出ています。
- アメリカで同性結婚禁止に違憲判決が出ました。日本では、憲法で男女の間の結婚しか認めていませんが、アメリカは異性間結婚と同性間結婚がある国になりました。

### ◆ 人類共通の道具 ◆

- JR 東日本「大人の休日倶楽部」で、熟年男女がやりたい習い事のランキングが発表されています。やりたいこと1位—パソコン、2位—料理グルメ、3位—スポーツです。そして、9位は英会話などの語学です。もう少し外国の人や外国の文化と触れるような気概や機会があったのではないかと思います。9位というのは、どうかと思います。
- 私が40年ほど前、皆さんと同じ世代の時に1年間アメリカに行っていたことがありました。片言の英語程度でも「あなたは外国人なのに英語がうまいね。」とお世辞でも言う人がいましたが、私の後輩でアメリカに駐在している記者は、1990年頃から外国人が英語を話しても「うまい。」と言う人はなくなった、と言っていました。アメリカ人が英語は世界的な言語であり、誰にとっても外国語ではあり得ないと思い始めたからです。
- 30年、40年前の普通に教養のあるフランス人には英語を話す人はいなかったように思いますが、そういう人たちも英語で平気に話をするようになってきました。
- 9月に大量のシリア難民がドイツに着いた時に、「Thank you Germany」と英語で書いたプラカードを出して、取材にも英語で応えた、ということがありました。
- NHKの英語会話では、昔のようにニューヨークやロンドンが舞台ではなく、今はシンガポールが舞台になっています。
- 英語は、アメリカやイギリスのものではなく、人類共通の道具だ、財産だ、と思って勉強していただければよいのではないかと思います。

### ◇座談会記録（要旨）

○はじめの言葉（生徒）

学校で習っている歴史では信州の文化についてはあまり触れないので、地元の歴史についての知識が非常に少ないと感じました。地元の知識がないのにグローバル社会と自分は言えるのかなと考え、もう少し地元についての知識を深めていきたいと思いました。この座談会では皆さんの活発な意見交換を期待します。

○生徒 A

今回の講演会に際して、上田染谷丘高校の昔の話など、調べている量が多いと感じたんですが、講演会自体の時間は短かった、と思うんですが、講演会のためにどのくらいの時間をかけて調べたのか、

お聞きしたいです。

#### ○生徒 B

講演会の中でグローバル化とインターナショナルの違いという言葉を見かけたのですが、それについて詳しくお話をお聞きしたいと思います。

#### ○矢高スーパーバイザー

グローバル化と国際化の違いがかなり重要だということです。私はさっき言いましたように飯田で生まれて、18歳まで飯田で育ちました。私の母親は上田に住んでいます。それから妹が上田の方と結婚をして上田に住んでいますし、私の姪が上田高校を卒業して、甥が上田染谷丘高校の卒業生ですので、上田には普通よりは親近感があります。長野県は、スポーツが強い県として知られているわけではないのですが、やはり上田染谷丘のクラブチームが全日本女子3連覇を達成したことは、金字塔と言ってもいいような記憶がありますので、同じ信州人として「強くていいな。」と、40年も50年も前から思っていました。それから上田高校が昭和32年の長野県大会で優勝して新潟県のチームと戦って、それに勝って、初めて甲子園に出場しました。先ほど言いましたけれど、翌年の昭和33年の第40回記念大会で、大会を主催している朝日新聞が、出場する学校の数を増やしましたが、上田高校が32回大会で勝って甲子園に出たということで、最終的に長野県を1県として独立させるべきだ、と決まったのだと思いますので、それも長野県人の、高校野球が好きな人間にとっては記念すべき、記憶すべきことなのです。翌年、昭和33年に私の母校の飯田高校が県大会の決勝まで行きましたが、松商学園に1-0で負けて甲子園に出られませんでした。それ以来、昭和58年に決勝まで行ったことがあるんですが、これまで一回も甲子園に出られない状況が続いていて、少し羨ましい気持ちがあります。

それから、グローバル化は、善し悪しは別として進んではいるのですけれど、やはり国際化があって初めてグローバル化にすり寄る、ということだと思います。「グローバル化についてどう思っているか。」という質問に対して、「主要な豊かな国が平和や権力を持ち、貧しい国が成長できずにいる。」と書いていただいた方がいたのですけれど、私も全くその通りだと思っています。やはり安易なグローバル化といいますか、世界が同じ基準でグローバル化をやってしまうような、言うならば自分の意思を世界中に押し付けようとするには気をつけなくてはいけなくて、自分の国のことを必ずしも好きになる必要はないし、好きでなくてもいいのですけれど、自分の国のことをよく知っていて、強い思い入れというか理解というか、そうしたものを持ってほしいと思います。

もう一つは、私はアメリカ、南アフリカ、イランという国に行っていましたが、これらの国に共通して言えることは他の国に支配されていた国ということです。アメリカは、他の国ばかり支配しているじゃないか、と思う方が当然おいでになると思いますが、アメリカはそもそもイギリスの植民地として始まって、イギリス国王の圧政から逃れ、自由になるために独立した国です。イランも他の国の植民地になった歴史はないのですけれども、1950年代には自主独立路線を目指した政府がアメリカのCIAのクーデターで倒されたということもありましたし、南アフリカは、ボーア戦争によって国を獲った国で、自分の国の独立に非常に敏感です。このような国は自分の国の国旗や国歌に非常に拘りますし、大事に思っています。私は皆さんに日の丸にいつも敬意を表すべきだ、ということは言いません。それは自分の国のことだから自分の国旗は自分で考えればいいのです。重要なのは外国の国旗に対して敬意を表すということは無条件に必要なことだ、ということです。やはり外国の国旗を見たら

心の中でも敬意を表する。あるいは一旦立ち止まる。あるいは場合によっては帽子をかぶっている人であれば帽子を取るか、帽子のつばに手をやるなど、外国に対して敬意を持つ必要がある、と思います。

皆さんは生まれていなかったと思いますが、長野オリンピックの時に日本の女子選手でモーグルで優勝した選手がいました。その人が表彰式の時に帽子をかぶって出てきて、帽子を取らずに金メダルを受け取りました。君が代が流れて、日の丸が掲揚される時にも帽子をかぶったままでいました。これを批判する声がありました。私が残念だったのは2位と3位の人ドイツとノルウェーの人で、やはり彼女にはドイツとノルウェーの国旗には敬意を表すべきだと思ったし、帽子を取って敬意を表してほしかった、と思います。

2年生の中で4月から7月の間に生まれた人は、来年、高校生として初めて選挙で投票する人たちです。「選挙に関心を持ってほしい。」ということなんですけれど、日本では国旗国歌法で君が代、日の丸が日本の国旗・国歌として決まっていますが、場合によっては憲法改正の投票で、日本の国旗・国歌を替えることができます。しかし、私達は外国の国旗と国歌を替えることはできません。やはり国旗や国歌に対して適正な決意を示すことが外国人との付き合い方だと思います。国と国の境があつて生きている国なので、「インターナショナル」ということを理解してほしいと思います。その壁をなくしていくことがグローバル化だと思いますが、単にグローバル化をすると強い国の水準を世界に押し付ける、ということになりかねません。どちらかという、今の日本は押し付けるような立場にあります。これからは強い国の水準を受けざるを得なくなる、というシチュエーションも出てくるかもしれません。ですから、グローバル化とインターナショナル化、インターナショナル化とグローバル化は似ているところもありますし、違うところもあります。両方大事ですけど違いがある、ということを知っていただきたいと思います。

## ○生徒 C

先ほどのお話で「大人の休日倶楽部」で英会話が9位だったんですけれど、その半面、今、教育の世界では小学生から英語の学習が始まっていたりしていますが、「Nation」という概念があつてこそそのインターナショナルだとおっしゃっていたんですが、英語を小さいころから始めるよりも日本の教育、日本の言語、日本の文化をもっと小さい頃から深く教えて、「Nation」をきちんと確立してからやった方がいいんじゃないか、と思うんですけれど、それについてはどうお考えですか。

## ○矢高スーパーバイザー

私も質問された方と同じように思いますので、その通りです、とそれだけで終わりたい(笑)なんですけれど、「やるな。」とは言いませんが、自分があつてこそだと思います。先ほどから言っていますが、国際化は自分を知り、自分を表現すること。なぜ自分がここにいるのかを深く突き詰めて考えることが国際化の本当の第一歩だと思います。やはり、自分の歴史をやるが一番いいことですね。

私は上田高校にも行くことがあります。門も素晴らしいですが、門のそばに校歌の碑があつて、「関八州の精鋭をここに挫きし英雄の義心のあとは今もなほ」と書かれていて、自分たちの置かれた位置、立場をしっかりと押さえた校歌だと思いましたし、上田染谷丘高校の「烏帽子の峰の雪を賞で」という校歌は、自分たちのところに真面目に気を配ってやっているところを感じました。そのように

自分たちの置かれた立場を考えた上で他の地域、もっと言えば他国の人たちと付き合っていくということですので、自分のことを勉強することは非常に大切です。要するに、自分のことを説明してくれる人でないと外国の人が会っても面白くないと思うんです。流暢でなくてもいいので、できればその人の国の言葉、あるいは世界の標準語である英語で、日本のことを説明してあげれば、喜んでくれることがあると思います。やはり自分のこと、自分の置かれた地位、位置、歴史を勉強することはとても大切なことですね。

○生徒 C

ありがとうございます。

○生徒 D

グローバル化について教育の面から考えると、日本の国はグローバル化を望んでいるのかな、と疑問に思うことがあります。例えば英語の授業は中学校と高校で6年間やってきましたが、あまり流暢に話せるようにはなっていないと思います。でも、それは実際生活で使うことがないから、逆に言えば使う必要がない社会だからだと思うんですけれど、本当に国や政府はグローバル化を望んでいるのですか。

○生徒 E

ジャーナリストとしての仕事の様子や取材の流れについて知りたいです。

○生徒 F

最近、中国について非常に気になるんですけれど、つい最近「一人っ子政策」が廃止されたと聞きました。さっき中国がどんどん輸入していかないと世界の経済が成り立たない、とおっしゃっていたんですけれど、一人っ子政策がなくなったら人口が爆発的にもっと増えて、需要が増え、もっと輸入が増えていくと思うんですけれど、今後の、世界の中での中国の位置づけを教えてくださいと思います。

○矢高スーパーバイザー

みんないい質問ですね。英語で「That's a good question.」と言うんだけど、それは難しい時、答えに窮した時に「That's a good question.」と言って時間をもたせたり、一息ついたりするんです。

一昨日の夜、日本では夜9時ごろですが、中国共産党の第5回中央委員会総会があって、それが終わったときに、36年間やっていた「一人っ子政策」を止める、と突然発表がされ、世界がある意味驚きました。中国経済の減速の問題です。みなさんの中にも中国がどうなのか、と心配している人が多いと思います。質問してくれた方は人口爆発になるのではないか、という視点での質問でしたね。それは確かにあるのだけれど、ジャーナリストはちょっとへそ曲がりなところがあるので、あえてそれを逆に考えることもするんです。

中国の経済減速は世界で本当に大きな問題になっています。とにかく中国が輸入してくれるので助かっている、という雰囲気があります。数カ月前のデータによると、貿易額は9.3%減と、3カ月連続で前年同月を割り込んでいます。こういう傾向が続いています。5月の輸出は2.5パーセント

減でしたが、それに対して輸入が 17.6%減となっています。つまり、輸出は一桁台の減少であったのに対して輸入は二桁台で減少しているということです。こういう傾向はまだ続いています。13 億人を超える中国の人口が 2023 年に減少に転じる、という見方が広がりました。10 代半ばから 59 歳までの労働人口が既に 3 年連続で数百万人規模で毎年減っています。それは 30 年以上続く一人っ子政策が主な原因だと見られています。中国の経済成長は 3 年連続で 8%を割りました。今年は場合によると 7%を割るかもしれません。これは労働人口が関係している、という見方です。中国政府は、36 年間続いた一人っ子政策を撤廃し、全ての夫婦が二人の子供を持つことを認めましたが、常識的に考えると今はもう手遅れで、中国の人口はもう戻らないと思います。日本でも何の決まりがあるわけではないですが、出生率が 1.36 となっています。ですから中国は日本と同じだと思います。子どもが生まれると一家の資力を投入しないといけないほど教育にはお金がかかります。実際に二人っ子政策で人口が爆発的に戻ってくれば却っていいのですが、そういうことは無い、と見ている人が多いという気がします。

ある大学の教授をしている方が言っていたのですが、今、安保法制があつて、戦争ができるようにするとかいう話の中で、出てきた話ですが、その先生は、東京オリンピックまでは中国は日本と戦いはしないだろうし、10 年経つと中国の高齢化が激しくなるので、とても戦争ができる国ではなくなる。だから東京オリンピックが終わってからの 5 年間で危ない、と言っていました。10 年経つと中国は日本以上の高齢化社会を迎えます。13 億の人間を抱えた中国が日本にあるような健康保険制度や介護制度を持たないまま衰退期に入る、ということが私としては気がかりです。

それからジャーナリストということで質問をしていただきましたので、私がジャーナリストであることを一番意識した話をします。これ（写真を見ながら）は「ハゲワシと少女」という写真です。これは 1993 年の夏に現在は南スーダンと言いますが、当時はスーダンという国の南部でケビン・カーターという人が撮った写真です。ケビン・カーターは南アフリカのカメラマンです。当時スーダンでは、20 年間以上も内戦をやっていたのですが、その内戦の戦闘現場取材のために彼は同僚と一緒にその町に行つたのです。同僚と一緒に行動をしていたのですが、「俺は一人で時間をつぶす。」と言って、一人で村に行つた時に撮った写真です。村を行くと、とぼとぼこの女の子が歩いてきて、お腹が空いて倒れてへたり込んでしまった。するとワシが舞い降りてこの少女を見ている。あわよくばこの少女を餌にしようと、思ったのかもしれない。ハゲワシは、この少女が死んだら食べてやろうということだったのでないか、と思いますが、とにかくケビン・カーターという人は写真を撮つたんです。これまでに色々な写真について議論が起きることがありますが、ジャーナリストの世界では、私がジャーナリストになってからは最も議論を呼んだ写真でした。この写真は、当座はニューヨーク・タイムズに載りました。ニューヨーク・タイムズに載った時に「何でお前は写真を撮つたんだ。助けなければいけなかっただろう。」という声が湧きあがつたんです。翌年の 4 月、当時ケビン・カーターは 33 歳でしたけれども、この写真で、世界で報道について最も権威のあるピューリッツァー賞の写真部門を受賞しました。これが決まるとアメリカのフロリダ州の新聞に投書があつて、「この写真にはハゲワシは写っていないよ。ハゲワシはこの写真を撮つたカメラマンだよ。」という投書が載りました。ピューリッツァー賞を取つた 3 ヶ月後、1994 年の 7 月、私はその時南アフリカにいたのですが、真冬の寒い日に雪が降りました。彼はその日に排ガス自殺をして死にました。その時に周囲の受け止め方であつたのは、このハゲワシを追い払わずに写真を撮つたことに良心の呵責を覚えて、責任感を感じて、耐えられなくて死んだのではないかということで、この話が世界中に広がりました。私は当時

南アフリカにおりましたので、関係者から取材をし、遺書を手に入れて読んだのですけれど、報道かあるいは人命を尊重すべきかという論争にはふれていませんでした。彼は生前写真を撮った後に「写真家としての本能が私に写真を撮れと命じた」と述懐していました。

取材というのは、特に写真はそうですし、ペンで取材する時もそうですが、何かが起きると思って現場に行くこともあります。そうそうこういった事態が起きるといったこともあるので、その時に準備なしで何かをしなければいけないこともあるし、一刻の猶予もなく判断を迫られることもあります。その時に、その瞬間に判断を下さなければいけない、というのがジャーナリストの一つの大きな役割だと思います。

これ（写真を見ながら）は、同僚の記者が撮った写真で、この写真もピューリッツァー賞を取っています。南アフリカで保守派と急進派の抗争が激しく、敵に対しては使い古したタイヤを首にかけて、ガソリンをかけて、火を着けるということも行います。これを「ネックレス」と言うのですが、彼は、こういう写真をずっと撮っていました。彼はこういうところでいつも取材をしていました。彼はその後、死を選ぶのですが、その死に対して様々な憶測が飛びましたが、真相は分かりません。ただ、私は呵責を覚えて、責任を感じて死を選んだのではないという記事を書きました。私は彼の両親に取材をしましたが、両親の話で私が一番印象に残ったのは「息子はこの写真を撮ることによって飢餓の現状を世界に知らせることができた。一人でも多くの人にスーダンという国の飢餓の、あるいは内戦の厳しさを伝えることができた。息子は写真家の務めを十分に果たした。」と言っていました。そういうことをやったというのが、両親が達した結論であったようで、もしシャッターを押す前にケビン・カーターがハゲワシを追い払っていたら、ケビン・カーター個人の悲劇は起こらなかつたけれども、スーダンの内戦を解決しなくては行けないという国際的な努力が生まれたかどうか分かりません。1994年にこのカメラマンが死んでから11年もかかりましたが、2005年にスーダンの内戦が終わりました。この間に200万人の死者が出ました。それから2011年に平和的にスーダンという国から南スーダンという、イスラム教徒がキリスト教徒を圧迫していたところからキリスト教徒主体の国が独立することになったことを考えると、1枚の写真を撮ったケビン・カーターの努力が実った結果だと感じました。ジャーナリストをやっていて強く思った印象はいくつもあります。自分もある程度は関わり、関係者に取材し、飢餓の様子や虐殺の跡のようなものを見た自分であるからこの話ことができました。ジャーナリストはなかなか厳しいところがあるので、こういうものも体験しなければいけないのだけれど、いつも体験するようなことにはなりたくないということでした。

もう一つはグローバル化の話ですね。グローバル化について私が最近思うことは、ヨーロッパの難民の引き受けの問題です。ヨーロッパと中東は、結局は陸続きの国なんです。ヨーロッパは難民のことについて真剣に考えなければいけないし、真剣に考えることは非常に大事なことです。日本は朝鮮半島、中国大陸から東シナ海や日本海を隔てているので感じ方が全然違うと思います。シリアの件に関しても、日本の感じ方は、欧州の国やオーストラリア、アメリカ、カナダとは違うと思います。グローバル化に則して考えると、グローバル化は、やはり自分の問題になってきます。自分の問題として考えるということがやはりグローバル化だと思うので、そこはどうしても違ってきて、フランスやドイツやイギリスのように外国人も多くないし、なかなか難しいことだと思います。直接答えるということにはなりませんが、例えばドイツは国が栄えていく中でトルコや中東の方からたくさんの移民を受け入れて、自分たちの経済成長のために貢献してもらっています。それからフランスは、旧植民地のアルジェリアやアフリカの国々から人を招いて経済成長をやっています。イギリスも黒人や旧植

民地のインド人が多くいます。インド人やパキスタン人が多いからイスラム国に参加するイギリス出身の人もいるということで、そこが日本とは違うし、真剣さが違います。欧州シリア難民の問題を欧州と同じように考えることはできないですし、日本が積極的に受け入れていくことは難しいかもしれないと思います。しかし、ベトナム戦争が終わった時はベトナム難民がボートピープルということでたくさんやってきましたが、日本は積極的に難民を受け入れていました。

今後アジアで事が起こったら今度は日本が動かなくてはならないということです。やはり今度はアジアの人間として、以前から関係を持っているアジアの国の問題としてもっと積極的に出ていかなくてはならない、と考えております。

#### ○生徒 G

グローバル化が進んで県内に外国人が多く来ているのですけれど、その中で問題などが生じています。外国人と共生していくためには、私達が外国人の言語や文化を知るとともに問題を考えていくことが重要だと考えているのですが、先生はどう思いますか。

#### ○矢高スーパーバイザー

これも「That's a good question.」ですね。今の提起をそのまま繰り返せば答になってしまい、それ以上付け加える必要はないのですが、やはり自分と違う人に対する興味や好奇心を持つことが大切だと思います。自分と違う背景を持っているその人個人についてでもいいと思いますし、その人が所属している文化の歴史に興味をもつことが大切だと思います。また、言語について興味を持つことは特に大切だと思います。こういったことを勉強すること、知るとはとても大切なことで、相手に敬意を表することになります。自分の言葉、自分の文化、自分の歴史を知っていてくれる、勉強しようという意欲がある、ということは二人の関係や二つの国家の関係を非常によくします。明日、明後日、日本の安倍晋三首相が韓国に行き、中国の李克強首相、朴槿恵大統領と日中韓首脳会談を行います。月曜日には朴さんが就任してから3年半経ってようやく日本と韓国の首脳会談が行われることになっていますが、それぞれの国の立場もありますが、お互いに相手の立場を知りあうことが基礎だと思います。たとえ物別れに終わっても、言い合いになっても、お互いの立場を理解しようとしていた、という姿勢が非常に大切だと思います。それよりももっと大切なことは、相手のことを勉強すると自分のことがわかるんです。違う国の人たちの文化や言葉や考え方を知ると「自分はこういう文化なんだ。」という違いがわかると思うんです。意外に同じだったことがあったりして、それがまた自分がわかるようになるということです。

皆さんがイランという国をどうお考えになるかわかりませんが、私はこれ（写真を指して）がイランを象徴する写真だと思います。私のイランのイメージは雪なんです。イランは、暑い国で、もしかしたら砂漠の国だと思っている人がいるかもしれませんが、本当に雪が降るんです。カスピ海という世界でいちばん大きな湖を季節風が越えてくる時にたくさんの水を吸って、それが3000メートル級の山を越えて、テヘラン市に降りてきて、そこに雪をたくさん降らせるのです。カスピ海の南の縁は、私達が今いる上田市くらいの緯度です。北緯36度25分くらいのところなんです。先ほど校庭の碑に北緯36度24分と書いてありました。ここと同じ位の緯度なんです。この（写真を指して）写真は20年以上前の写真です。ここに写っている標高1250メートルのテヘランの山と、かつて住んでいた長野のアパートから見える北アルプスの山がそっくりで驚きました。また、子供には蒙古斑があります

が、ペルシャ人の子供にも蒙古斑がある、という話を知って親近感を覚えました。このように見ますと、意外に同じものがあることに気がつきます。

グローバル化に対しては是非相手のことを勉強して、その相手に対する敬意を表明していただきたい、と思います。そうすると相手との違いや相手と同じところがあることに気づくと思います。私たちは相手との違いと似ている所の両方を見ることで、長野県で生まれた私達がどういう人間なのか、どういう歴史があつて今ここにいるのか、ということもよく分かってくるとと思いますので、多くの人と、外国の人とつきあうことを利用して自分というものを理解して今後、役に立てていただきたい、と思います。

(司会生徒)

矢高さんより大変勉強になるお話をいただきました。どうもありがとうございました。それでは最後に生徒代表よりお礼の言葉があります。

○お礼の言葉 (生徒代表)

本日は2時間とても充実した時間を過ごさせていただきました。私が感じたことになってしまうんですけど、今、非常にグローバル化だ、グローバル化だと言われて、漠然と世界に目を向けるようにはしていたんですけど、本日の話を聞かせていただいて、やはり根本にあるのは自分の文化や自国の文化や自分のことを知って相手の文化などを知って、互いにそれを尊敬しあう。それに興味を持って敬意を示すというのがインターナショナルな世界を作っているんだと思って、もっと自分のいるところを見直そうと思えるようになりました。この高校生の時期にこのような有意義なお話を聞かせていただいてとても嬉しく思っています。矢高さん、本日は本当にありがとうございました。